

御印の植物について

岐阜県立森林文化アカデミー 教授 ● 川尻 秀樹

平成27年10月、揖斐川町谷汲での全
国育樹祭にお越しになられた皇太子徳
仁親王殿下が、翌日岐阜県立森林文化
アカデミーを行啓されました。

平成13年に開学した森林文化アカ
デミーとしては、開学以来の歴史的な
出来事であり、お迎えする私たちも緊
張しながら教育全般をご説明させて頂
き、かつ在校生とのご歓談もしてい
ただけました。

この行啓の中、殿下の御下問から、
その知識の深さに感動致しましたの
で、その一部を紹介しながら、御印の
植物についてふれさせていただきます。

私がご説明した林業教育の中で、殿
下は「最近ではチェーンソーの振動、白蟻
病は問題になっていませんか」とお尋
ねになられ、また、広葉樹林の写真パ
ネルに写る樹幹をご覧になって、それ
が梓（あずさ）であることに気づかれ、
殿下自ら「あつ、これは」と指摘され
ました。

「梓」は皇太子殿下の御印の植物で
す。御印とは皇族の方々が家紋のよう
に、身の回りの品などに用いる徽章（御
印章）で、天皇陛下は榮（えい）桐、
皇后陛下は白樺（シラカバ）、皇太子
徳仁親王妃雅子さまはハマナス、愛子
内親王さまは五葉躑躅（ゴヨウツツジ）
となっています。

さて、殿下の御印である梓は、植物
図鑑にミズメ（Betula grossa）と記
されています。ミズメは樹皮や木材が
サクラによく似ており、材質的にも優
れているため重宝され、ミズメザクラ
（水目桜）の名称で広く流通しています。
古くは梓弓（あずさゆみ）をつくる材
として、神事や出産などの際、魔除け
に鳴らす弓（鳴弦）として使用されま
した。みなさんも昔、学校で伊勢物語
や万葉集を習った時に「梓弓」があっ
たこと思い出しませんか。

ミズメは樹皮を剥いだり、枝を折つ
たりするとサルチル酸メチル（鎮痛剤

のサルメチール）臭がすることでも有
名で、昔の仙人（そまびと）が疲労回
復に利用したことから、マッサージ用
のオイルまで販売されています。岐阜
県内では、北部の山間地域の広葉樹林
に多く見られます。

次に、妃殿下の御印であるハマナス
（Rosa rugosa）は、バラ科バラ属の
落葉低木で、夏に赤い花（まれに白花）
を咲かせます。ハマナスの花言葉は「見
映えの良さ」、「悲しくそして美しい」
などがあり、人の心をとらえ、癒して
くれる花でもあるのです。

ハマナスと言えば、ある程度の年代
層の方々は「知床旅情」の中で、「知床
の岬に ハマナスの咲く頃」と歌われ
たことを思い出されるように、ハマナ
スの浜は海岸の砂地を意味し、浜に生
えて、果実が梨に似た形をしているこ
とから「浜梨（ハマナシ）」と呼ばれて
いたものがハマナスという名になった
のです。

根は染料などに、花はお茶などに、
果実はローズヒップとして食用にもな
り、岐阜県内では花フェスタ記念公
園や個人の庭などで見ることができま
す。

また愛子さまの御印である五
葉躑躅は、植物図鑑にシロヤシオ
（Rhododendron quinquefolium）と
記されています。シロヤシオはツツジ
の仲間、5月6月に白色の美しい花
を咲かせ、枝先には5枚の葉が輪生状
につくことから、ゴヨウツツジとも呼
ばれます。岐阜県内では中津川市と恵
那市の市境にある高原、根の上高原に
はこのシロヤシオが約100本自生し、
恵那市の天然記念物に指定されていま
すので、一見の価値があります。

さて、今年、2016年には「植物
図鑑」という映画も公開されますが、
皇族の方々の御印の植物を知ったこと
を契機に、植物図鑑片手に野に、山に
出かけることも、森林と人とを活かす
ことにつながると思いませんか。



▲ミズメの葉と果実